

武雄市文化のまちづくりデザイン会議 会議録

日 時	場 所	出 席
令和 3 年 11 月 22 日(月) 14:15 ~16:40	如蘭塾迎賓館	☐ 委員(山口夕妃子会長、七田忠昭副会長、井上俊正氏、田中友子氏、松尾陽輔氏、川副義敦氏、井上祐次氏、光武英樹氏、綿島康浩氏、鳥谷憲樹氏、永松直子氏、山口祐香氏、諸岡智恵氏) ☐ 松尾教育長 ☐ 市役所 企画政策課 中村係長 ☐ カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 笠井氏、山本氏 ☐ 事務局 こども教育部文化課新文化会館整備準備室
1. 協議件名		第5回 武雄市文化のまちづくりデザイン会議 (テーマ:構想骨子修正案・具体的事業についての検討とディスカッション)

議事録

1.開会(進行:山北文化課長)

2. アンケート調査報告(CCC 笠井氏より)

- ・中高生向けと一般向けあり 18 歳以上 943 中高生 720 計 1645 の回答
- ・文化活動を行っていない理由として 18 歳以上の文化活動をしていない理由「活動する時間がない」、中高生の文化活動していない理由「興味がない」が多かった。
- ・市内の公共施設において、文化会館が文化活動で使用が一番多いという結果。
次に図書館・歴史資料館。中高生は利用していないとの回数が多い。
- ・文化施設に求める機能では中高生が軽食カフェ利用、魅力的なイベントが多い。
18歳以上が魅力的なイベント、音楽、演劇などを見ることが出来る場
- ・誇りに思う、文化・地域資源については若い人は温泉とまちなみが一番多かった。
40代以上の方は3本の大楠という選択が多かった。
- ・文化を次世代に伝えていくために必要だと思うことは、地域の文化について学ぶ機会が求められている。中高生では学校における文化体験学習の充実が求められている。

3. 議事 構想骨子修正案の検討・ディスカッション

①第4回までの会議を受けての構想骨子修正案の提案(事務局より)

- 構想タイトル案、文化のイメージ、文化のエリアの考え方と構想骨子修正案の説明(事務局より)
- 文化の木を育てていくイメージ、基本理念に合わせて柱を2点から「成長する文化づくり」、
「文化に関わる人づくり」、「文化によるまちのにぎわいづくり」の3点に修正。あわせて施策の方向性について4から6、施策を9から12に再編。

②構想骨子修正案の具体的な事業案についての提案(事務局より)

- これまでのご意見をもとに施策にぶらさがる事業案について考えられるものを提案。
- 武雄らしさ、新しさを視点に優先させるもの、他に考えられる事業についてご意見をとお願ひ。

《ご意見》

○文化のバリアフリー化について、物理的なものだけでなく、多言語表記や新たな人が文化活動を行う機会づくりを図るべきではないか。

○オンラインでつながる公民館は、公民館同士をつなぐだけでなく、市民がバーチャルで参加できる講座などがあるものにしてはどうか。

○武雄らしさを考えた際、これまで武雄は外からの知識を取り入れて発展してきた。文化の担い手を外部から呼んで発展させていくといいのでは。

○児童生徒が学校で制作した作品を公開し、市民が見れる機会を設けては。

「市民のための市民ギャラリー」をつくるなど。サイトや場があれば。

○伝統芸能の継承は地域の課題だが、他の地域からでも継承する人を引き入れるのか。

○歴史資料館で企画展の見学を子どもたちが行ったのはとてもよかった。

次の展開として子どもたちが自分の地域以外を周り、知る機会があってもよいのでは。

○こども文化体験ツアー、市民ミニ修学旅行など市内のことを知る機会があってもよい。

また、「農あるくらしをつなぐ」施策があってもよいのでは。庶民が紡いできた文化もある。

○オンラインや時間がなくても参加できる、体験できる場づくりが必要ではないか。

○文化を親しみやすい形で発信する必要がある。気軽に体験できたり、触れられる機会を。

○外部から芸術家を受け入れる仕組みをつくる。武雄の知名度を高めて、文化を知ってもらい武雄を発信してもらうことができる。

○大人がこども、若者へ教えるだけでなく、こども、若者から学ぶ機会があってもよいのではない。特に SNS の分野など若者文化を吸収する場があってもよい。

⇒構想骨子修正案について承認をいただく。具体的事業については本日の意見をもとに整理して、再度提案させていただく。また、構想タイトルについては、次回いくつかの案を出したいと考えている。委員の皆さまからも案を出していただきたい。

③ディスカッション(拠点となる施設の考え方)

この構想の中の事業について実現させためどのような文化施設が必要となるか、構想を活かすためにどのような機能が必要かを議論いただきたい。

○第1グループ

- ・若者へは場所と時間が用意されていれば文化活動に繋がると思う。クラブに所属参加しなくても使いたい人が使いたいときに自由に使える仕様がいかも。
- ・使いたいときに自由に使える、多目的に利用できるスペース。そこで生まれる企画が文化会館で定期的に行われる展示会・イベントなどに繋がるのでは。
- ・若者で考えると、1H ごとに気軽に使える場所。家以外で語らえる場所、人と交流できる場があったらいい。人が集まって、みんなで考えたこと、練習してきたことを見せる場となれば。

- ・今の文化会館はコンベンションセンター的な感じ。子どもたちが気軽に寄れない壁を感じる。もっと市民の方が気軽に利用できる形にしないといけない。
- ・にぎわいづくりを行ううえで、文化という枠を外してでも、例えば子育てセンターなど施設の複合性があれば人が集まりやすくなるのでは。
- ・オープンスペースの中でフリーな使い方ができる。作業が見れて、出来上がったものも展示するギャラリーがあったり活動が見える形のつくりがいいかも。
- ・機能について、気軽に寄って一角に武雄に関することがわかるコーナーがあればいい。
- ・歩いて回るのに、外から武雄に来た人が座ってゆっくりする場所がない。文化会館にそのような機能があったほうがよい。

○第2グループ

- ・気軽にこれる、ガラス張りで中が見える場。敷居が高くなく、文化活動をしにいくばかりでない、ふらっといける場になればいい。
- ・図書館から文化会館の通路を歩くとタイムスリップした空間。庭園と借景をつないで活かした施設となればいい。
- ・アンケートからわかるように文化活動に興味がない人が多い中で武雄市図書館・歴史資料館は入りやすい空気感を出している。建物のしつらえ、接客、服装など、文化会館も興味ない人がこれる仕掛けがあればじわじわと増えるのでは。
- ・文化活動について何かやりたい人、何をやっていいかわからない人がつながる場所となれば。心地よい空間が必要。文化に関してもレファレンスが必要と感じる。
- ・名称ついて固くなりすぎると自分とは関係ないところとなる。文化会館という名称を使わないのも裾野を広げる方法と言える。ぼくない方がいいこともある。
- ・知っている人が知らない人に伝える機会が少ない。仕組みが結び付ける場所。
- ・一般の人が文化にふれる場も必要だが、武雄にいらっしゃる芸術家(やきもの、染色など)など文化人にふれる場としてもいいのでは。窯元さんが窯開きをしても敷居が高かったりする。
- ・店舗と美術作品の連携。市内にある既存の建物、施設をつかってもいいのでは。
- ・本物が見える、生の演奏が見えるなども大事。
- ・文化会館と図書館・歴史資料館をつなぐルートを歩いて楽しくなる工夫を。

4. 閉会(山北文化課長)

次回、第6回は12月24日(金)を予定。

構想本文についてのご提案となる。

部長 理事		課長 参事		係長		係員	
----------	--	----------	--	----	--	----	--